

# 農林水産大臣賞受賞

里山に生きる

ちゅうぶかんきょうほぜんかつどうかい  
受賞者 中部環境保全活動の会  
(兵庫県宝塚市)  
たからづかし

## ■ 地域の沿革と概要

宝塚市は兵庫県南東部に位置し、市域は南北に細長く、南部は武庫川沿いの低地と周辺の丘陵地・山地からなる住宅市街地、北部は山地を主として谷筋の低地が連なる山里の自然に包まれた地域からなっている。

南部の住宅市街地は、「歌劇と温泉の街」と知られるように宝塚大劇場をはじめ、JR宝塚線、阪急電鉄が整備されており、市街地から大阪や神戸までは電車で30分ほどの距離で、年間を通して多くの観光客が訪れている。

一方、市域の約3分の2の面積を占める北部(旧西谷村)は、総称して「西谷地域」と呼ばれ、数多くの文化財、神社仏閣があり、周囲を丘陵性の山並みに囲まれた自然豊かな農村地域である。

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

中部環境保全活動の会が所在する大原野中部地区は、西谷地域の中心部に位置し、人口は348人147世帯(令和2年2月現在)で、子供が17人、高齢者が150人と他の農村地区に比べ緩やかであるものの、若者の都市への流出は顕著で過疎化が進んでおり、地区内の農家数は50戸(34%)、農業就業人口は50人(14%)と非農家の割合が高い農村

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
組織の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	0.6%
	総世帯数 94,014戸
	総農家数 598戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 76戸
	1種兼業農家 55戸
	2種兼業農家 239戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 10,180ha
	耕地面積 391ha
	田 305ha
	畑 86ha
	耕地率 3.8%
	農家一戸当たり耕地面積 0.7ha

注：宝塚市

と非農家の割合が高い農村

である。

中部地区には、行政の総合窓口である西谷サービスセンターを始め、診療所、駐在所、郵便局、JA、小中学校等が集約され、既に「小さな拠点」が形成されており、西谷地域の交流・活動の中心となっている。

特に、この拠点の中に地域総合施設「西谷ふれあい夢プラザ」が、平成17年に建設され、同プラザ内に設けられた農産物直売所、農産物加工所では、地元の農産物やその加工品を購入することができ、また、秋に開催される西谷収穫祭では、地元の農産物・軽食等の販売が行われるほか、農産物の品評会や作品展等によって、市内外から多くの人々が来場する等、地域の農家と非農家の交流の場となっている。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

中部地区は、農業者よりも非農業者が多い地域であり、地域住民はそれぞれの立場から、地域活動組織である中部自治会、中部農会、中部婦人会、中部老人会、中部子ども会、中部財産管理会など、いずれかに参画し地域活動を推進してきた。

しかし、農地・農村環境を管理してきた関係農家の高齢化等から、農用地、農業用水路の施設管理等が困難となり、集落機能の維持に支障を来していた。

このような状況のもと、平成17年のほ場整備の完了に伴い、農地の有効活用につながる効率的な農業が行われ、同年11月に西谷夢市場（農産物直売所）の開設により、中部地区を含む西谷地域の各地区から農産物が直売所へ出荷されることによって、農業者と非農業者が関わる機会が増加していった。

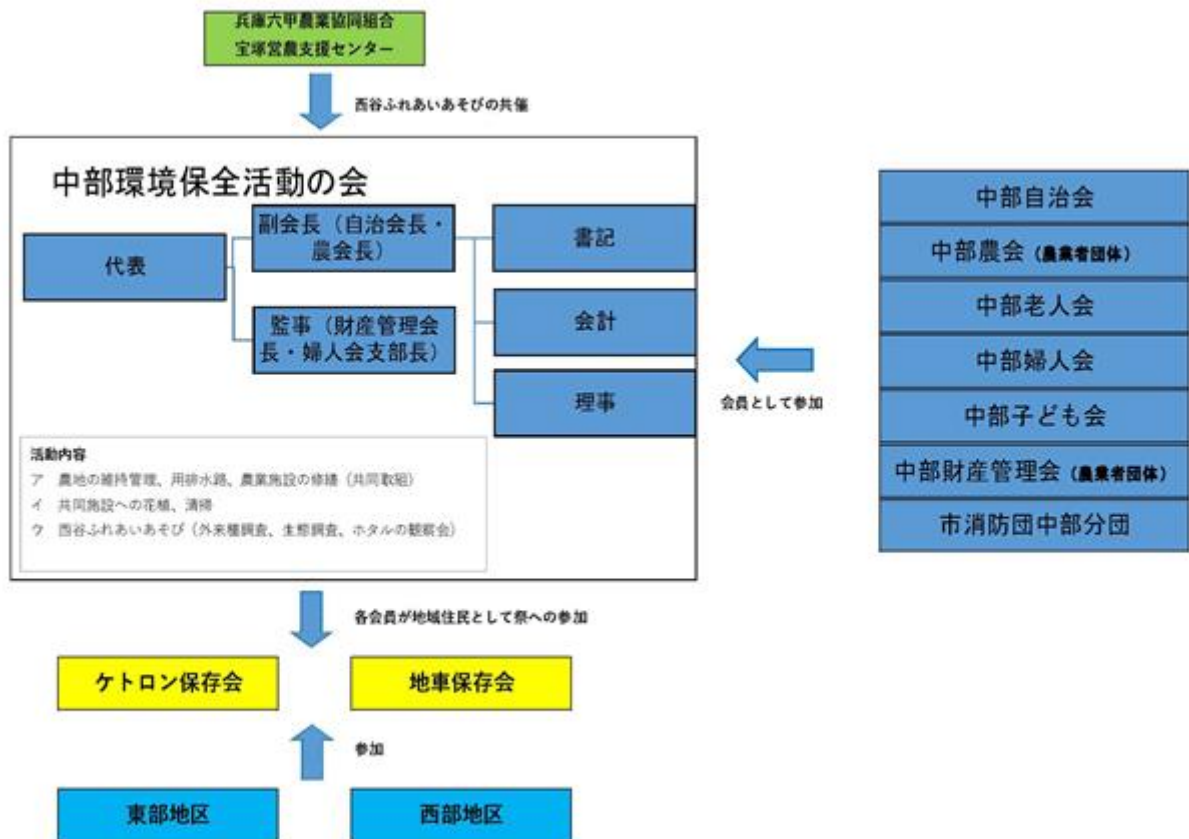
更に中部地区では、平成19年度から多面的機能支払交付金（旧農地・水保全管理支払交付金）への取組を契機に「中部環境保全活動の会」を発足させ、農業者主体の中部農会の活動から、農業者と非農業者と一緒に農村環境を守る活動をするための会へと発展し、各種団体が連携して取組むことにより、地域住民の関係性が一層深まることとなった。

### (2) むらづくりの推進体制

#### ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

中部環境保全活動の会は、会長は互選により選出し、自治会長と農会長を副会長とし、老人会、婦人会、子ども会、財産管理会、市消防団中部分団などの役員が協力団体として組織されており（49名）、毎年4月に総会を開催し、年度の事業計画について協議を行っている。

第2図 むらづくり推進体制図



イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織の状況

毎年6月～7月に行っている「西谷ふれあいあそび」の環境保全活動は、中部環境保全活動の会だけでなく、近隣地区の団体との協力による「ため池の外来種調査」や「水路の生体調査」、「ホタルの観察会」を開催し、西谷地域だけでなく、宝塚市の都市住民が参加する地域交流の場となっている。このイベントでは、兵庫六甲農業協同組合宝塚西谷支店が協賛するなど、円滑な協力体制の構築を図っており、兵庫県、宝塚市、宝塚市教育委員会など行政と連携した取組となっている。

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

中部環境保全活動の会の設立により、これまで農業者が主体となって個々に或いは、水系単位の共同作業で行ってきた農用地や水路の管理等の共同活動が、非農業者とともに実施することによって、中部環境保全活動の会を中心とした各団体との連携が図られるようになった。自治会・婦人会との地区内一斉清掃活動の実施や子ども会との生物生息状況調査や地域の祭りが、地域住民の集う機会となり、地域内で多数を占める非農家の理解の下、世代間の垣根を超えた「共助精神」が根付いている。

また、最近、都市住民も参加し交流を図っている「西谷ふれあいあそび」は、健康で長生きをキーワードに「西谷の農村環境まるごと体験」として、広く地域住民は無論のこと、都市住民の参加を呼び掛け、西谷住民とのつながりを大切にし、交流人口の増加に向けた取り組みを展開していこうとしている。

中部地区は、地区全体が外部の人との交流に抵抗がなく協調的な地域であり、移住者が地域活動に参加しやすい環境にあることにより、交流人口の増加、定住者や担い手の確保に加え、後継者が魅力を感じる取り組みを図り、更なる活動の発展が期待できるものである。

## 2. 農業生産面における特徴

### (1) 特産品の生産

中部地区では、中部環境保全活動の会の共同活動によって、農業者と非農業者が一体となって地域内の農地を保全し、農業用水路の補修等を直営施工するなど、基盤整備された農地で水稲を中心に、化学肥料や農薬を低減して生産する環境創造型農業を取り入れた「たからづか西谷太ねぎ」や「黒大豆枝豆」の特産品が生産されている。



写真1 直営施工による改修



写真2 「たからづか西谷太ねぎ」と「黒大豆枝豆」

### (2) 新規就農者による食育

中部環境保全活動の会のメンバーである新規就農者の野菜農家は、宝塚市南部の市街地から移住し、西谷夢市場（直売所）での販売や小中学校の給食への食材提供を行うことと併せて、年間8回の地産地消の出前講座を行うなど、食育を実践している。



写真3 西谷夢市場(直売所)

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) 景観形成活動と環境体験学習

中部環境保全活動の会では、毎年、自治会や老人会、婦人会と協力して地区内の空き缶拾いや清掃、共同施設への花の植え替えを行う等、景観形成活動に取り組んでいる。

また、隣接集落の西部地区、長谷地区などとの共同主催による「西谷ふれあいあそび」の環境体験学習を開催しており、宝塚市自然保護協会等の専門家と地区内外の子供たちとともに、ため池や川の生態系調査や釣りを通して外来生物の駆除を行う等の環境に対する地域の理解を深めるための活動にも積極的に取り組んでいる。



写真4 西谷ふれあいあそび  
「環境体験学習」

#### (2) 西谷ふれあい夢プラザを拠点としたコミュニティ活動

中部地区には、西谷の中心地として地域総合施設である西谷ふれあい夢プラザが建設されており、「西谷会館」、「西谷児童館」、「西谷夢市場（直売所）」の3つの施設で構成されている。この施設では、毎年秋に収穫祭が行われ、西谷地域の農産物の販売や特産品であるダリア球根販売、西谷地域にある小中学校の作品展示等を通じ、地域内外との交流が進められており、中部地区内だけではなく西谷地域住民の情報共有の場として利用され、地域コミュニティの醸成に繋がっている。

#### (3) 伝統行事への寄与

毎年8月に宝山寺で行われる「ケトロンまつり」（宝塚市無形民俗文化財）は、江戸時代から300年以上続いている健康祈禱の念仏行事であり、大原野地区（中部地区、東部地区、西部地区）の幼児から中学生の子供たちが西部組、中東部組に分かれ、それぞれが鉦、太鼓、音頭の9人体制で念仏行人を構成している。行人を務めると音頭になるまで9年間、さらにその後は、指導者として後進の育成にさらに9年間携わることとなっている。



写真5 「ケトロンまつり」

また、10月に開催される大原野素戔鳴神社の秋祭りは、毎年約500人の参加があるなど盛会なものとなっており、この伝統行事により、300年の歴史や地車・太鼓・子どもみこし等の伝統文化の継承とともに、大原野地区の大事な地域内住民との交流の場であり、子供たちが主要な役割を担っている。



写真6 秋祭り「子供みこし」

これまで中部環境保全活動の会と連携団体に取り組んできた「西谷ふれあいあそび」の環境体験学習等の地域住民との交流活動や小中学校への食育の取組は、地元の子供たちが地域を知り、愛着を持つ絶好の機会となっており、継続されている伝統行事の維持に大きく寄与している。